

『カザミドリ』

実はこっそり5週間も海外に行ってきました。
37日間。ひとりきりの、ヨーロッパをめぐる旅です。

パリ、プラハ、ウィーン、ベネチア、ローマ、フィレンツェ、ミラノ、バルセロナ、リスボン、さいごにもう一度パリ。

たくさんの方で、いろいろなものを見て、聞いて、出会ってきました。世界遺産もたくさん訪れました。

でも今回はそれ以上に、散歩する、日光を浴びる、本を読む、ご飯を食べる、ゆっくり寝る、たまには昼寝もする、日記を書く、考えごとをする、歩く、歩く、歩く。そんな普通のこと、ただ、したかったんです。こんなにも時間がゆっくり流れるのは本当に久しぶりでした。

仕事が好きで、休みなんか要らない、毎日仕事したいって言い続けて、そこに何の迷いもなかった私。去年はアルバムとライブツアーのことで頭がいっぱいで、そこに全身全霊を捧げていました。だからそれが完結したときとても幸福だったし、一生大切にしたいすてきな宝物になりました。

その一方で、あまりにも没頭しすぎてほかのことが何も考えられず、友達と過ごす時間も自分をいたわる時間も後回し。夢の中でまで仕事をしていました。ときどき体の方が悲鳴をあげて、突っ走る私のたずなを引くように体調を崩すことが何度かありました。

それで、このままじゃいけないな、と。とにかくライブが無事終わるまでは夢中でやって、そしてそこで何もかも一度電源をオフにしてみよう。ちょっとやさつとの休みじゃ取り戻せそうにないこの覚醒しまくったモードを切り替えないと、いつかどこかでショートしそう。きっと家にも仕事しちゃうから、無理矢理にでも外へ出よう。今を逃すと後悔する。きっとこれは二度とないタイミングなんだ。かぜよみツアーを完結するときに、私にとって大きな節目になるはずだから。

…この短いエッセイの中で、旅の理由を上手に説明するのは難しいです。ただ、「絶対に行かなくちゃいけない」という確信がありました。行き先はハッキリとは決めず「ヨーロッパ」。もしもすぐ相性の合う場所があればそこに留まっても良いし、動き続けるほうが気分に合わせていそうならそうしよう。自分の直感を信じ、本能の声を聞くための時間。パカンスじゃなくて、何か修行にでも行くような、そんなピリリとした決意を持って始まった旅。



何はともあれ長年の夢でもあった海外長期一人旅を20代最後の記念に実現させることができました。これほど長い休みをとるのは、小学生のときからこの仕事をしていた私にとって、20年前の小学2年の夏休み以来ってことになるんですね。仕事の関係者の皆さんには本当に暖かいご理解をいただいて、こんな貴重な時間をもらうことができました。感謝しています。

この旅で得たもの、考えたこと、それはこれからゆっくり、いろいろな機会 皆さんにお届けしていくと思います。

地図を見てるのに毎日道に迷ってばかりで自分が情けなくなったり、日本ではありえないような電車の激しい遅延に見舞われて予定が全部狂ったり、急な雨で何十分も雨宿りしたり。そんな遠回りした時間を、イライラせず楽しめた自分がいました。いつもすべてに意味がなければいけなくて、無駄なく効率よく行動して、ひたすら動き続けていたいタイプの私だけど、でも昔はもうちょっと「遊び」の部分があったはず。なんで、いつからこんなに難しい人間になっちゃったのかなあ、と、パリのパン屋の店先でぼんやり雨宿りしているとき考えました。

ライブツアーの中でも語った通り、私は自分と握手するのにとっても時間のかかった人間です。でも今、あのツアーのとき握手した自分と旅をしながら、もっと自由になっていいんじゃないの？と言われた気がしました。

そして本当に生まれて初めて心身の休暇をとって、今後の表現に役立ちそうな刺激もたくさんもらって、すっかり充電することができました。おかげで次はどんなことしたい、どんなものをつくりたいって構想が今いっぱい湧いてきます。

ここからです。ここからが始まりです。旅は一時的なもの。その中だから敏感になる感性、たとえば天気や景色や人の笑顔にいちいち大きく感動しちゃうような気持ち、そういうものをいかに普通の毎日の中でも持ち続けていけるか。これから先も、旅するように生きていきたいから、そのためにどうすればいいか。これが一番難しいと思うのです。

だから、帰国しましたが、まだまだそのつづきを、ずっと生きてくんです。

それにしても「カザミドリ」という曲はどの国のどんな場所で聴いてもぴったりフィットしました。ほんとに、この歌詞そのまま。そんな旅でした。

* maaya *

... THE ID